

令和元年度 第2回岡崎市国際化推進委員会議事録

1 日時

令和2年2月19日(水) 午後2時～午後3時30分

2 場所

市役所東庁舎701会議室

3 出席委員(敬称略)

委員長 川崎 直子

副委員長 伊東 浄江

委員 戸田 暁子 呉 香瑩 長尾 晴香

4 欠席委員

井上 登永 東松 陽一

5 傍聴人

なし

6 事務局

社会文化部長 河内 佳子

国際課 課長 太田 義男、副課長 五十嵐 千草、主任主査 竹谷 昌祐、

主事 安藤 美咲、主事 鈴井 美菜子

7 議題

1 第2次多文化共生推進基本計画について

2 岡崎市の国際化の現状について

8 議事要旨

司会の国際課長が開会を宣言。今回任期が改まり最初の会議であったため、全委員、事務局の自己紹介を行った。その後、社会文化部長の挨拶に続き、委員長、副委員長の選任を行い、互選により委員長に川崎委員、副委員長に伊東委員が選出された。本委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき本会議が有効に成立している旨を報告。議長を務める川崎委員長により議題の審議が進められた。

- 議題 1 第2次多文化共生推進基本計画について
2 岡崎市の国際化の現状について

事務局 : 第2次多文化共生推進基本計画について及び岡崎市の国際化の現状について説明。
委員長 : 委員の皆様から御意見・御質問はありますか。

<第2次多文化共生推進基本計画について、岡崎市の国際化の現状について>

委員長 : Viva おかざき！！と共に行った防災訓練についてですが、今後はどのようなことを訓練内容に追加していきたいと考えていますか。

F 委員 : 今年度の反省点は、災害時通訳ボランティア養成講座との連携ができなかったことです。今後は災害時通訳ボランティアの役割をしっかりと明示し、それを踏まえて、災害多言語支援センターをどのように運営していくかを考えていきたいと思えます。また、コミュニティ通訳員をどのように活用していくべきかを検討していきたいです。

事務局 : 防災訓練に関する周知が今回は遅くなってしまったため、今後はもっと早めに行いと思えます。

委員長 : プレスクール「ぴかぴか」が始まったばかりのようですが、どのような感じですか。

事務局 : 参加人数は12人です。そのうち5人がブラジル人、中国人、ベトナム人が3人ずつ、フィリピン人が1人です。

A 委員 : まずまずの滑り出しです。最初の問合せはベトナム人、その次に中国人でした。ブラジル人からの問い合わせがなかなかなかったため、人材派遣会社に周知を依頼しました。子どもは日本語能力がある程度ありますが、親があまり日本語の理解ができていないので、特にベトナム語の通訳が見つからないことに困っています。親に学校について説明をすることが難しいです。また、子どもは日本語を話すことができる程度できて、親は母語のみ話せるような現状で、今後、親子間のコミュニケーションが課題になってくるように思われます。

外国人児童生徒の学習支援をする場所を今後もっと増やしていけたらよいと思えます。

委員長 : プレスクールは来年度、回数を増やす等、拡充をしていきたいと思えますか。

事務局 : できれば拡充していきたいです。

委員長 : プレスクールは子どものための学習支援ですが、保護者の方もせっかくいらっしやっているのであれば、日本の学校生活について説明する場を設けたらプレススクールの意義もしっかりと伝わるかもしれません。

E 委員 : 高校の進学について少し気になることがあります。中学校では外国人生徒

が進学しやすい高校等しっかりと説明していますか。又は、そのような学校を把握していますか。

事務局：学校では、進路説明の際に、外国人生徒の場合は、語学相談員と共に1人1人丁寧に説明しているようです。

E 委員：私はそのように感じていません。外国人の生徒は、各自で自分に合った学校を調べなければ、情報を入手することができていない状況です。

事務局：現状はそうかもしれません。県から情報を入手したり、教育相談会を開催する等、改善していけるように検討していきたいと思います。

F 委員：以前、国際課長と外国人児童生徒を担当している教員の会議に参加しました。担当になった先生たちは、本当に困っている様子で、行き場のないような状況でしたので、教育現場と国際課の情報共有が重要だと思います。

事務局：重要な情報を県からも確実に入手して情報発信していきたいと思います。

B 委員：多文化防災訓練はどのような様子でしたか。

F 委員：国際課は早い段階から災害多言語支援センターのマニュアルを作成していますが、実際にそれに向けての訓練をしたことがないということでしたので、訓練をしてみて具体的な課題を見つけたいと思いました。実際訓練をしてみて、外国人市民への情報提供、日本人市民への対応等、スタッフが分散してしまい、なかなかうまくいきませんでした。地域の外国人市民や日本人市民等いろんな人が参加してくれたので、それぞれの立場で、目的が若干異なってしまったのが課題です。

B 委員：課題がたくさん出たことはとても良いことだと思います。今後もぜひ続けていってください。

委員長：国際化推進基礎調査結果から外国人市民の防災に関する意識が高まっていることが分かります。また、指定された避難所を確認している外国人市民や防災訓練に参加する外国人市民も平成 22 年度より増えていることが分かります。防災訓練に参加する外国人の方々が、参加してよかったと感じている結果がよく表れていると思います。

A 委員：タブレットで外国人市民の対応をどのように行っていますか。

事務局：職員と外国人市民、テレビ電話内の通訳で対応をしています。

委員長：一番多い対応言語は何ですか。

事務局：ポルトガル語です。ポルトガル語嘱託員が国際課にはたくさんおられますので、タブレットを使用せずに対応が済んでしまうことが多いです。

委員長：タブレットでの対応は、各言語の通訳を国際課がそれぞれ契約しているのですか。

事務局：通訳スタッフを多く雇用している業者に委託をしています。

委員長：外国人市民に周知はしていますか。

事務局：周知はしています。

委員長：タブレットでの対応は、これまでに何件の実績がありますか。

事務局：7件です。

委員長：タブレット対応の要件にはどのようなものがありますか。

事務局：転入転出手続きや国民健康保険、国民年金、税関係です。

F 委員：利用実績があまり伸びていませんが、窓口担当者からは何かご意見はありますか。

事務局：国際課に通訳嘱託員がたくさんいるので、外国人市民が来庁された場合、最初は嘱託員に通訳をお願いしています。

委員長：外国人市民数の動向を見てみると、ベトナム人が増えているようですが、技能実習の方が多いですか。

事務局：技能実習の方が多いです。

F 委員：近年、技能実習ではなく直接雇用で外国人を雇う企業も増えているようです。外国人を多く受け入れている会社等に研修を今後行っていく予定はありますか。

事務局：現時点では予定がありませんが、今後検討していきたいです。どこの企業に何人の外国人の方が雇用されているか現時点では把握できていないですが、数か月前にハローワークの職員の方と情報共有をする機会があり、今後も情報共有を続けていきたいと思えます。

A 委員：国際化推進基礎調査結果を見てみると、定住化が進んでいるようです。また、子どもの使用言語については、母国語と答えた方が平成 22 年度より 3%増えたようです。使用言語は家での使用言語なのか学校での使用言語なのか、この 3%はどのように読み取ったらよいのでしょうか。

事務局：3%は誤差の範囲内だと思います。

委員長：国際化推進基礎調査結果を見ると、外国人の増加を望ましくないと思う日本人市民より、外国人市民の増加を望ましいと思う日本人市民が平成 22 年度よりも増えました。10 年間で多文化共生が進んだことが分かります。次の 10 年間で望ましいと思う日本人市民がさらに増えると良いと思う。

岡崎市には大学が 6 校あります。国際化推進基礎調査の設問 9 の留学生の支援とは具体的には何でしょうか。岡崎市が支援するというのでしょうか。

事務局：岡崎市が支援します。まずは、どこの大学に留学生が何人いるのかを把握することから始めたいと思えます。

E 委員：国際化推進基礎調査結果を見てみると、多文化共生に重要な取り組みについて、ごみ出しのルールを教えると答えた日本人市民が多いです。ごみ分別についてですが、転入時に外国人市民をまとめて研修をすると良いと思えます。

事務局：転入時にまとめて簡単な研修をできるように努力したいと思えます。現在は、転入時には転入セットを 3 言語で用意してお渡ししています。また、多言語動画も待合スペースで映していますが、5 言語で放映しているので、待っている時間に自分の言語で動画を見ることができるとは限りません。

A 委員：多言語動画のごみ分別の部分だけでもしっかりと見てもらえると良いと思

ます。

B 委員：実際にごみ出しのトラブルの相談を受けたりしていますか。

事務局：コミュニティ通訳員会議の中では、ごみ出しのトラブルが減ったというお話を聞いています。コミュニティ通訳員のいない地域でのごみ出しの現状はあまり改善されていないのかもしれませんが。

F 委員：防災と教育事業が増えてきています。今後もぜひ関わっていきたいと思います。大人に対しての日本語教室の支援体制を今後強くしていくと良いと思います。

A 委員：定住化が進んでいるので、今後、外国人市民の高齢化に対する支援が今後課題になると思います。

<まとめ>

委員長：今回の国際化推進基礎調査結果から岡崎市の多文化共生が進んできたことがよくわかりました。今後も多文化共生事業を推進していただきたいと思います。

ありがとうございました。

事務局：貴重なご意見ありがとうございました。これで令和元年度第2回国際化推進委員会を終了します。